
今でも生きてる

yuuuuui

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今でも生きてる

【Nコード】

N9080A

【作者名】

yuuuui

【あらすじ】

初恋の人を亡くした。早過ぎる彼の死。受け入れられないあたし。切ないラブストーリーです。

初恋（前書き）

作者のあたしが実際に経験していることです。嘘や偽りは書きませ
ん。温かい目で読んでほしいです。

初恋

プルルル…

カチャ

ケータイを開いたあたしの動きは一瞬にして止まった

『嘘でしょ…？』

友人から来たメールには

【安田が死んだから葬式きて…!!】

と書かれていた。

安田と出会ったのは小学生の時。

彼はヤンチャなイタズラっ子

そんな彼にあたしはいつもバカにされる…

苦手な奴って思ってた。

なのにかかわれたりするの結構楽しくて

「ばあゝか！！！」

って言われるたびに

『やすだあゝ！！！！』って言って彼を追いつけてたなあ…

色んな占いの本とかおまじないの本見て隣の席になれるよう願った
り…

そう。

初恋ってやつだ！

でもまだ小学生だったあたしは何も出来ず…

いつものように追い掛けっこ始まったときだった

クラスの男の子達が

「ヒューヒュー」

と、あたし達を冷やかす

「お前ら仲良いよな！付き合っちゃえよ」

あたしはきつと他のクラスまで行き渡るぐらいの大きな声で言った

『こんな奴好きじゃない！』

あたしはなんだか恥ずかしくってカッとなった…

そんなある日、安田があたしの友達と追い掛けっこになっていた！

『安田またなんかイタズラしたのかな？』

そんなコト思いながら彼を見ているあたし

その時だった…

『きゅん…』

胸が泣いた！

安田と他の女の子が笑ってる姿…

いつもの光景なのに

ズキ…

『あたし…』

ドラマとかで見たことある！

恋って胸が苦しくなったりするもんなんだよね？

『……』

『…あたしきつと…』

『安田のこと…』

『…好きなんだ…』

伝えられない想い

あたし達は中学生になった

あたしの学校は2つの中学校に別れる。

あたしは安田とは違う学校だ…

あたしは中学校に入学してソフトボールを始めた…

練習に明け暮れる毎日

学校で毎日安田と顔合わせていた日々が懐かしい

もちろん今でも安田のことは好きだ

しかし会うことはない

連絡を取るにも当時ケータイが普及してなかったから家電に掛ける
しかない…

あたしにはそんな勇氣はなかった

そんな中一の夏

あたしはどうしても彼に好きって気持ちを伝えたくなった。

彼の家までチャリを飛ばす

家の前に着いた

すると急に胸がそわそわし始めた

『何て言おう…』

『どんな顔すればいい？』

『てゆうか、安田は家に居るのかな？』

彼の家の前をウロチョロするあたし

今考えるときつとあたしはストーカーのようだったと思う…（笑）

すると…

…ガチャ

「何やってんの？」

『…！』

安田が出て来た！

『あ！たまたまここ通つてさ！』

『安田んちここなんだね！』

苦しい言い訳をするあたし…

「ふん」

彼はニタニタ笑っていた

あたしはマシンガントークを続けた

そんなあたしに

「変な奴」

と言う彼

変わらない彼に胸が高鳴る

伝えなきゃ…

しかし

『あ…じゃああたしそろそろ行くね!』

「あゝ」

『またね』

「じゃあな」結局伝えることはできなかった

あたしはこの時知らなかった

まさかこれが安田と話す最後の日になるとなんて…

安田の死

あれから月日は流れ、あたしは安田ではない他の人に恋をした

高校生になると彼氏もできた

今ではあの甘酸っぱい初恋もいい思い出だ！

地元を歩いていると彼に会うこともあった

見るたびに

『あ！元気そうだな』

って思いそつと彼に見つからないように隠れた

昔のこととはいえ、なんだか胸がチクつてするからさあ…

そんな高校2年生の冬

彼の死を伝えるメールが届いた…

『嘘でしょ…？』

あたしは信じなかった

誰かのイタズラかと思った

家に帰るとお父さんが新聞をあたしに見せた

「これ…友達じゃないか？」

新聞には事故について書かれていた

『うん…そう…』

安田は保土ヶ谷バイパスを原付で走行していた

それに乗用車が突っ込んだのだ

あたしは状況をうまくつかめないまま友達とお葬式に言った

お葬式場には彼の名前が大きく掲げられていた

安田の友達はみんな頭を刈っていた

その場で泣き崩れる子もいた

ここに来てても状況は把握できない

把握できないというかしたくないのだろう…

懐かしい友人達との再会

『普通こおゆうのって成人式とかじゃないの？』

中に入ると安田の小さい頃から今に至までの写真が並べてあった

安田の家族や親族の席に座ってる安田の彼女を見て胸が痛くなった

バカなあたしもここに来てやっとわかった

『…安田は…』

『…安田はもう…』

今でも生きてる

冷たくなった安田が入った箱の前に行く

体が小刻みに震える…

あたしは神を恨んだ

『なんで安田なの？』

『なんでこんなことするの？』

まだ17のあたしにはあまりにも大きすぎた安田の死

同窓会とか成人式とか…

いつか大人になったら笑って昔の話できると思ってた…

言えなかったあの想い

もどかしかったあの時

笑いながら

『好きだったんだよ』

って…

でも…

もう…

その瞬間

『伝えなきゃ』

あたしはそう思った

今が彼に会える最後…

今伝えなきゃ絶対に後悔する…！

彼を前にしてあたしは心の中で何度も叫んだ

『大好きだよ』

『大好きだったよ』

彼に届くかはわからない

それでも一生懸命心を込めた

あれから2年半の月日が過ぎた

あたしは今年二十歳になる

彼は…

安田は…

本来なら来月二十歳の誕生日を迎える…

けど

彼は17歳のまま…

来年の成人式。

きっと彼はいない

もう会えることはない

それでも彼は生きている

姿や形はないけれど…

あたしの心の中に…

みんなの心の中に…

安田はいつまでもいつまでも生き続ける

彼に出会えたことに後悔した日もあった

神様を恨んだこともあった

でも今は…

あたしは想ってるよ

『今でも生きてる』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9080a/>

今でも生きてる

2010年10月12日06時17分発行